「物部川清流保全に関する勉強会」実施報告

■日　時：　平成25年10月11日（金）13：30～16：00
■場　所：　香美市立中央公民館2階会議室
■参加者：　33名

物部川清流保全推進協議会では、物部川清流保全計画（平成20年7月策定）が目標とする川の姿について、物部川流域で清流保全に関わる関係者や市民が共に考え、学び合うことを目的として、平成 24 年度から勉強会を開催しています。

2 回目の開催となる今回は、物部川の“川の中”に焦点をあて、高知県環境研究センターが実施した物部川の水質調査の報告とともに、水生昆虫の視点から見る物部川の現状や多様な生き物が生息できる川と流域の在り様についての講演を行いました。

◇　清流モニタリング調査の報告

高知県環境研究センターでは物部川の上流から下流までの 9 地点において年 4 回の水質等調査を実施しています。

当日は 24 年度の調査結果をもとに、上流域の調査地点では崩壊土砂によって河床や生物相に変化が見られたこと、下流域の調査地点でも礫の間に土砂が詰まり生物の個体数としても少ない状況にあったことなどが報告されました。今後は継続してデータを蓄積することにより物部川全体の水質環境の変化及び水質変化の相関関係について引き続き調査・研究を行い、人の感覚に近い指標のあり方を探るとともに、新しい水質評価の方法によって濁りの原因を分析することも取り組んでいきたいということでした。

◇　多様な生き物が棲める物部川であるために

高知県環境研究センターが 24 年度に実施した清流モニタリング調査の結果では、例えば上流の安丸地点における水生生物調査において、夏場の水質階級（四万十川方式）が最下位ランクであったほか、春と秋の調査でも 6 段階評価中下位のランクとなるなど、水質は良好であっても水生昆虫にとっては棲みにくかったという状況が見受けられました。こうした事象をひとつの題材としながら、物部川清流保全計画が目指す「多種多様な生き物が生息する川」の在り様について、水生生物研究家の石川妙子氏より講演をいただきました。

講演では、水生昆虫の生態は水質（水質汚染や濁水）、河床形態、エコトーン（陸とのつながり・水際）、流域の森林再生や田畑の管理（水量や濁水への影響）などあらゆる河川環境の影響を受けていることや、水生昆虫の生息場所は瀬、淵、水中の植物の根や茎など様々で生き物の多様性を持たせるためには川の形に変化があることが重要なこと、また、水の透明度の低下には森林の手入れ不足が大きく関係しており、山～川～里～海のつながりや山と川の横断的なつながりといった流域の「つながり」が大切であること等が示されました。

なお、予定していたフィールドワーク「水生昆虫採集」は、天候不順によるあいにくの増水のため残念ながら中止となりました。

◇　参加者の感想（抜粋）

＊ 物部川が厳しい環境にあるということが良く理解できた。
＊ 川の汚れ・濁水はいつも感じているが、生物にもかなり影響していることがわかった。さまざまなことが関係していると思うが、勉強させてもらってよかったと思う。

協議会では今後も物部川清流保全計画を推進するため、物部川を取り巻く環境課題の共有と理解促進に取り組んでいきます。